

原発事故から まもなく2年を迎えるにあたって思うこと

私は、福島県田村市船引町というところに住んでいます。現在、中学1年生の娘がひとりいます。あの3.11当時は郡山市に住んでいました。福島県の地形は横長で、会津地方、中通り、浜通りと3つの地域に分けられます。

郡山市は中通りの中でも真ん中に位置します。原発からの距離は約58km。距離的なものだけで考えると現在住んでいる田村市船引町は約35kmと近いですが、放射性物質の空間線量は田村市の方が比較的低いのです。

郡山市は、ホットスポットがたくさんあり、以前私たちが住んでいた地区は郡山市の中でも非常に汚染された場所になってしまいました。

娘が通っていた小学校も非常に汚染されたということで、福島県内で一番最初に校庭の表土除去をしました。しかし、未だに校庭の空間線量は0.3マイクロシーベルト程度あります。

私たち保護者も、あの原発事故後は毎週末学校に除染をしに行きました。しかし、たいした防御もせず、普通のマスクをした程度の格好で…。夏の暑い日には、半袖で除染活動していた方もたくさんいました。当初は、除染の危険性よりも、「子どもたちのために少しでも線量を下げたい。」という思いが強く、私も積極的に除染活動に参加していました。

しかし、いろいろと勉強していくうちに、一市民が安易に除染活動をすることは危険なことなんだと知り、それからは除染活動に参加しなくなりました。この頃の除染は、高圧洗浄機とデッキブラシで洗い流すもので、あくまで汚れを移す、『移染』でしかありませんでした。未だに、除染はいろいろ問題点があります。

娘は小学校6年生、本当なら一緒に卒業するはずだった同級生も20人くらい避難のために転校していきました。全学年合わせると、100人くらい転校したそうです。子どもたちは、何度もお別れ会をし、一緒に卒業できずにお友達とさよならするという悲しさ、寂しさを何度も経験しました。

我が家は、お友達と一緒に卒業したいという娘の意見を尊重し、娘の卒業を待って引越しました。そのために、無用な被ばくをしないために、二人でやり続けたことがあります。

- 外出時は絶対マスク着用
- 給食の牛乳は飲まない

- 校庭での体育のときは、教室で待機
- 登下校は歩いて10分程度の距離ですが、車で送迎

当初は、牛乳を飲まないのも、校庭での体育に参加しないのも、クラスで娘ひとりだけだったようです。しかし、すこしずつ増えて5、6人にはなったとのこと。でも、25人中5、6人…。その他、飲料水、食材にも、もちろん気をつけました。

そして、9月半ばに東京大学でホールボディカウンター検査を受ける機会があり、受けてきました。とても精密な機械で検出限界値が1ベクレルとのこと。検査結果はNDで、安心しました。

9月下旬に尿検査もしており、こちらはフランスのアクロという機関で検査してもらったものなのですが、セシウム134が0.40ベクレル、セシウム137が0.44ベクレルと微量ながら、セシウムが検出されました。セシウムが検出されたということは、内部被ばくしているという事実を突きつけられたわけで、こんなに気をつけているのに、何が原因なんだろうとしばらくショックでした。



こんなに気をつけていても、セシウムが検出されたんだから、何も気をつけず校庭で原発事故以前のように普通に部活動などをして子どもたちは大丈夫なのだろうか？とも心配になりました。

それからは、体の中に取り入れてしまった放射性物質を排出させようと、それまで以上に食事に気をつけています。たださえ、他県の子どもたちより外部被ばくのリスクを負っているのだから、化学調味料や添加物などは極力避ける。自己免疫力を高める食事を摂るなど、今できる最善を尽くしています。

そして、長期の休みのときは、外部被ばくからも逃れるために、遠くの汚染されていない土地でできるだけ長く過ごす！これが、今、保養と言われているいわゆる短期避難です。

我が家の娘も、この保養のために昨年の冬休みに引き続き、今年の年末年始も、光円寺さんにお世話になりました。冬休みだったので、今回は1週間という短い期間でしたが、娘共々、私もリフレッシュさせていただきました。保養の間の1週間、地震を感じずに過ごせたことも娘にとっては大きかったようです。こちらは、いまだに毎日のように余震がありますから。

保養は本当は3週間以上、汚染されていない土地で過ごしたほうが効果があると言われています。

しかし、本当なら福島県から遠く離れた土地へ避難するのが一番だと分かっているけど、できない様々な理由を抱えた家庭の子どもたちにとっては、わずかな期間でも保養で受け入れていただけるのはありがたいことです。

私も、遠くへ避難するのが一番だと分かってはいます。しかし、おとし、父が入退院を繰り返し、1年に3度の手術をしたこと。その際に、気丈だと思っていた母が、病院の先生の手術の説明も頭に入らないほどオロオロしている姿を目の当たりにして、ひとりっこである私は両親を置いて遠くへ避難する踏ん切りがつかせませんでした。

以前住んでいた学区の中学校もかなりの汚染区ですが、中学校で校庭での体育の時に参加しないで教室で待機していると高校入試の際の内申書に影響すると聞いたので、郡山からは引越しをしようと思っていました。

夫は、茨城県土浦市に単身赴任しています。そちらへの避難を考えて調べてみたら、そのあたりも汚染されていて、かえって田村市船引町の実家あたりの方が汚染度が低いことがわかりました。そこで、原発からの距離は郡山よりも近いものの、高い山々に遮られ、放射性物質が郡山よりは落なかった田村市船引町の実家に引越しました。

昨年9月から線量バッジをつけて積算線量を測っているのですが、低いといっても今年5月までで1.56ミリシーベルト。1ミリシーベルトは超えてしまいます。

こういう数値を目にすると、やはり遠くに避難すべきだったのでは、避難すべきなんだ、とは思うのですが、避難したらしたで福島で暮らす両親を思い、日々悩んだりするだろうし…。

どうすべきか、何が正しいのか、毎日毎日、いろいろな思いがグルグルグルと頭の中を巡っています。

昨年11月に娘が甲状腺検査を受けました。

結果は、A2判定。

『20mm以下の嚢胞を認めましたが、二次検査の必要はありません。』というものでした。

20mm以下の嚢胞が1つなのかいくつもあるのか。異常なしだった人たちと同じ2年後の検査を待っていていいものなのだろうか。

血液検査では異常なしでしたが、不安は尽きません。

4月には中学2年生になる娘。

だんだんと、高校受験も近づいています。

福島県の県立高校は、校庭をはじめ全く除染をせずに、原発事故以前と同じように活動してきました。原発事故後間もない頃から、部活動でロードワークで線量の高い中走っていたし、マスクもせず通学のために自転車に乗っていたし。

プールも、2、3回入ってからプールの水の検査をしたらセシウムが検出されたので、今年のプールの授業は中止しますといった高校もあったし。

そんな、県立高校には安心して通わせることができないので、どうするか悩んでいます。

校庭の除染をし、プールも屋内プールがある郡山の私立高校にするか？県外の高校へ行かせるか？

今回、保養から帰ってきたら今までひとりで県外の高校へ行くのはイヤだと言っていた娘が、「兵庫の学校に行こうかな…。」とポツリと言ったことがありました。これから、高校進学については娘とじっくり話し合っていこうと思っています。

しかし、とにかく健康第一ですから、今後も長期の休みのときは保養に出し、少しでも心身ともにリフレッシュさせたいと思います。

保養は、受け入れ先の方々のご協力があってこそ成り立つものです。これまでの光円寺さんの保養でも、光円寺さんをはじめ地域の方、その他多くの方々のカンパや様々なお気持ち、ご協力があったこと、本当に感謝致しております。

まもなく原発事故から2年、人々の関心も薄らいできたように感じます。しかし今現在も大量の放射性物質が排出されていますし、収束はまだまだ先の話です。

どこも保養を行うための資金集めが大変だ…と聞きます。資金が集まらず開催を断念したところ、規模を縮小して行つところ、複数団体が合同で開催するところ…などなど様々です。

それでも、福島の子供達に目を向け続けて下さる方々が日本国内のみならず世界中にたくさんいる。そして、子供も親も事故前には決して出来なかったであろう経験や出会いができる。本当に有難い事です。

不幸な事故に見舞われ不幸な一生を背負う運命にあるけれど、幸福な体験ができ、その素晴らしさを知ることができたのはかけがえのない幸運でもあったのだらうと思います。

これから先も、子どもたちの健康を維持するために、保養は長い間続けていただきたいと思っています。ひとりでも多くの子どもたちが、きれいな空気の下で短期間でも過ごせるよう、今後ともご協力をお願いいたします。

渥美 美紀

